

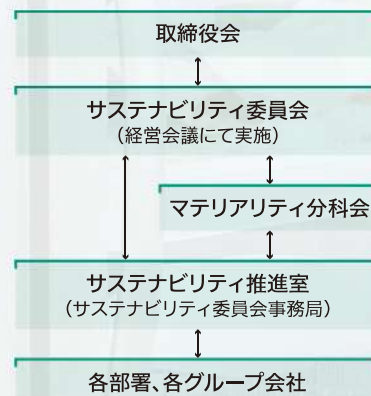
サステナビリティの取り組み

サステナビリティ基本方針

ガリレイグループは、企業理念である「幸せ四則」に掲げる「生活者」、「お客様」、「社員」、「株主・お取引先」の幸せを実現するため、事業活動を通じて社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現と、中長期的な企業価値の向上を目指します。

サステナビリティ推進体制

ガリレイグループ全体でサステナビリティの推進を行うため、2021年6月にグループ横断の「SDGs推進委員会」を設置しました。委員長は代表取締役 社長執行役員、メンバーは経営会議の出席者です。委員会は四半期に一度経営会議とあわせて開催され、サステナビリティ全般に関する事項を議論する体制を整えています。また、今年度からは、委員会の中に「マテリアリティ分科会」を設置し、分科会ではマテリアリティの具体的なアクションを検討する役割を担っています。



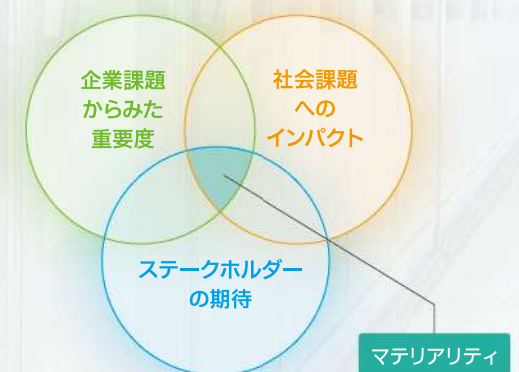
※2024年10月より、「SDGs推進委員会」は「サステナビリティ委員会」に名称変更しました。

ガリレイグループのマテリアリティ

ガリレイグループは、食糧問題、気候変動、ダイバーシティなど、様々な社会課題が取り巻く環境において、事業を通じて社会課題を解決していくことが必要不可欠であると認識しています。この社会課題に対してガリレイグループとして解決すべきことを明確にするため、2023年9月にマテリアリティ（重要課題）を特定しました。

マテリアリティは、「企業課題からみた重要度」、「社会課題へのインパクト」、「ステークホルダーの期待」の3軸で重要度評価を行い、さらに社外取締役や有識者などの外部の視点も取り入れ、最終的には取締役会の決議を経て、8つのマテリアリティを特定しました。

ガリレイグループは、マテリアリティへの取り組みを通じて、持続可能な社会の実現と、中長期的な企業価値の向上を目指していきます。



マテリアリティ

各マテリアリティについては、中長期的に取り組んでいく具体的な取り組み及び指標・目標を設定しており、ガリレイグループ全体で目標達成に向けて取り組んでいます。

指標・目標の進捗状況についてはサステナビリティ委員会に報告され、達成に向けた施策を検討しています。

提供価値	マテリアリティ	関連する機会とリスク（□機会 ■リスク）	具体的な取り組み	指 標	目標年	目 標	実績（2023年）
おいしさの 喜びと感動を アップデート	生活者の くらしを向上 	□外部連携による価値共創 □技術革新によるスペシャリティの創出 □変化の先読みによる競争優位の確立 □デジタル、ディスラプションによる 事業基盤改革の推進 ■投資を怠ることによる機会損失や競争力の低下 ■強固な参入障壁を構築できないことによる 多数の競合企業の出現	●MILABを活用した 産官学連携による 共創の推進	●MILAB利用者数	2025年	●10,000人/年	●3,014人/年
			●食のスタートアップ企業 育成	●スタートアップ支援数	2030年	●累計30社、 2社上場	●13社
食の ライフラインを支え ゆたかな暮らしへ	フードロスの 低減 	□食品ロス関連の法規制、ルール強化 □冷凍・解凍技術の発展 □途上国のコールドチェーン構築のニーズ増 ■食品ロス規制等への対応遅延による事業機会損失	●フードロス低減に貢献する 技術開発 ●フードロス低減に貢献する 製品、システム、サービスの 提供 ●アジアのコールドチェーンの 発展に貢献	●製品、サービスを通じた フードロス低減貢献量	2030年	●150,000t/年	●73,617t/年
	持続可能な サプライチェーン の実現 	□資源循環や環境に配慮した 製品開発による事業機会の創出 □お客様の満足度向上による ブランドへの信頼獲得 □サプライチェーンの最適化等による 新しい価値の創造 ■サプライチェーン上の品質問題発生による 部品調達不全、製品回収 ■サプライチェーンにおける社会・環境問題への 対応遅れによる部品調達不全、企業価値毀損 ■自然災害やパンデミック、 特定地域の輸出規制への対応の遅れによる サプライチェーンの断絶	●サステナブル調達 ガイドライン浸透 ●サステナブル調達の推進	●サステナブル 調達ガイドラインに沿った 調達（アンケート回収率）	2025年	●80%	●89.3%
			●サプライチェーン 最適化の推進	●内製化、強靱化、 デジタル化の推進	2030年	●100%	
			●Zero Call Companyの 推進	●スマート診断による プレメンテナンズ実施件数※1	2025年	●定性評価	●板金／銅管加工の内製化 ●主要部品の複数購買／ 適正在庫整備 ●配送センターDX化
					2030年	●3,000件/年※1	●115件/年

提供価値	マテリアリティ	関連する機会とリスク（□機会 ■リスク）	具体的な取り組み	指 標	目標年	目 標	実績(2023年)
地球上すべてのいのちをいきいきと健康的に	健康的な生活への支援 	☐ 再生医療技術の発展 ☐ 健康課題の深刻化、多様化による食生活習慣の見直し ☐ 完全調理済冷凍食品の伸長 ☐ 途上国の医療・介護分野のコールドチェーン構築のニーズ増 ☒ メディカル、ヘルスケア分野における競争激化	●再生医療、ヘルスケア領域への多様なアプローチ	●再生医療、ヘルスケア等の新規領域の製品開発	2025年	●定性評価	●ノンフロン薬用冷凍冷蔵庫、蒸気加熱式再加熱カート開発
			●メディカル、ヘルスケアへの貢献	●メディカル、ヘルスケアに貢献する製品、システム、サービス提供件数	2030年	●20,000件/年※1	●9,265件/年
	脱炭素社会の実現 	☐ 環境・脱炭素関連の法規制・ルール強化 ☐ 環境性能の高い製品へのニーズ増 ☐ ネットゼロに向けた取り組みの推進、お客様との協業 ☐ ブランド信頼獲得 ☒ 気候変動への対応遅れによる企業価値毀損 ☒ 温室効果ガス規制等の対応遅延による事業機会喪失	●グリーン冷媒への転換	●加重平均GWP	2025年	●500(内蔵型) ●1,500(別置型)	●1,603(内蔵型)
			●冷媒ガス漏洩防止	●冷媒漏洩量	2029年	●150(内蔵型)※1 ●750(別置型)※1	●1,596(別置型)
			●環境性能の高い製品を開発・提供	●LCA評価による環境負荷の少ない製品への移行	2035年	●0t-CO ₂ /年	●52,423t-CO ₂ /年
			●CO ₂ 排出量削減	●ガリレイグループCO ₂ 排出量削減率	2025年	●定性評価	●LCA評価公表 ●業務用冷蔵庫、製氷機ノンフロン化
				●バリューチェーン全体のCO ₂ 排出量削減への取り組み	2030年 2050年	●2013年比▲50% ●2013年比▲100%	●33.7%(9,302t-CO ₂)
					2025年	●定性評価	●エアテック27店舗、エネマネ478店舗(11.2%省エネ貢献)導入
世界中の一人ひとりのしあわせに貢献	地域社会との共生 	☐ 社員のモチベーション向上や人材育成につながる ☐ 若年層に広まるESG志向との方向性の一致、人材獲得の機会拡大 ☐ 食への喜びやスポーツの楽しさの提供による企業レピュテーションの向上 ☐ 外部連携による事業機会の創出 ☒ 企業市民として地域社会に認められない場合は、企業ブランドを大きく毀損 ☒ 地域社会に配慮した活動が不十分な場合、企業イメージが低下し優秀な人材獲得の機会喪失	●ガリレイ1%クラブを通じた社会貢献活動の推進	●ガリレイ1%クラブ活動実施件数	2030年	●200件/年※1	●89件/年
			●地域コミュニティや自治体との連携を通して地域社会に貢献	●ボランティア参加延べ人数	2030年	●1,000人/年	●439人/年
	人材の育成 	☐ 定着率向上、技術の確実な継承により確固たる技術力を維持できる ☐ コールドチェーンを支える人材の輩出による企業レピュテーションの向上 ☒ 人材の育成不足による企業競争力の低下 ☒ 離職率の上昇による企業レピュテーションの低下 ☒ グローバルな人材を確保できず、海外での競争力を失う	●人材の育成、教育制度の継続的強化	●一人当たり研修時間	2025年	●定性評価	●全日本ジュニアテニス選手権の暑熱対策協力 ●工場社会科見学受入れ ●フクシマグローバル人材支援奨学財団を通じたグローバル人材育成支援
			●ガリレイアカデミー推進・拡大	●技術者養成学校運営による冷熱技術者の育成	2030年	●20時間/人※2	●17.4時間/人※2
	多様な人材の活躍 	☐ 働きがいの向上による会社の成長 ☐ イノベーションが起きやすい環境づくり ☐ 様々なバックグラウンドを持つ人材の獲得、登用ルートの増加 ☐ 社員が心身ともに健康な状態になることで、仕事へのモチベーションが向上し、生産性が向上する ☒ 人材獲得競争の激化によるコスト上昇や多様な人材の獲得が進まない場合の企業レピュテーションの低下	●従業員エンゲージメントの向上	●エンゲージメントスコア全社平均	2025年	●65※2	●55.9※2
			●人材基盤の多様性確保(女性活躍推進、中途採用拡充、若年層の離職低減、シニア人材活用、外国人登用拡充)	●女性役員比率	2030年	●30%	●8.3%
				●女性管理職比率	2030年	●10%※2	●2.8%※2
			●働きやすい職場環境と多様な働き方の整備	●海外グループ会社の現地社員の管理職比率	2030年	●55%※1	●27.3%
				●時間外労働平均時間 ●有給休暇取得率	2025年	●15時間※1※2 ●70%※2	●22.4時間※2 ●63.6%※2

※1 今年度、指標・目標を見直しています ※2 フクシマガリレイ単体